

## (1) 産業・観光

### 《総論》

- 産業振興を推進し、産業の活性化をまち全体の活性化に結び付けることが大切である。
- 地域間競争に勝ち抜くためには、産学官連携による産業クラスターの形成を促進することが重要である。
- 区内産業の活性化のためには、観光振興を図ることが必要である。

#### 【各委員の意見】

- ・産業の活力こそが区全体の活力を引っ張っていく
- ・産業振興は荒川区の生活全般の基本になる
- ・産業振興が商業振興や観光振興につながる
- ・専門化した業種をつなぐような異業種間の連携が重要
- ・企業間連携、産学連携、産学官連携等による産業クラスターの推進
- ・つくばエクスプレスの開通によるつくばとの連携推進
- ・地域間競争への対応
- ・大企業ではないが全国シェアが高い企業等を産学連携やつくばとの連携で育成
- ・産学連携のためには、実業界と学者との間に共通の言葉が必要
- ・荒川区の新しい産業として観光に力を入れていくべき
- ・観光はすべてに通じる産業
- ・「住んでよし、訪れてよし」の地域づくり、観光地づくり
- ・地域間連携による観光のルート化の推進
- ・産業の活性化のためにはまちづくりの視点も重要
- ・産業の活性化が税収に跳ね返ってくるような地方税体系が必要
- ・後継者問題は、若い人が将来に対して夢を持てるかが重要

### 《各論》

#### ○ものづくり

- 区内産業を引っ張る企業を育成し、区全体の産業活性化につなげる大切である。
- 既存の製造業の集積を活かすとともに、産業構造の転換と新産業の育成を図ることが重要である。
- 国、都及び各種調査研究機関等との連携を強化し、区が中小零細企業振興のポータルとなり、個々の企業ニーズにあった支援策を提供することが必要である。

#### 【各委員の意見】

- ・競争力のある企業を盛り立て、関連する企業や産業を引っ張ってもらう
- ・中核企業の育成・誘致により中小企業も生きてくる
- ・全国区で通用している企業に、区の人員と能力を集中的に動員して、支援することが必要
- ・既存の製造業の集積を大切にする
- ・小規模・零細企業に対する支援
- ・ものづくり産業のIT化
- ・経済産業省や中小企業基盤整備機構等の支援を区でまとめて、個々の企業ニーズに合わせて渡していく
- ・荒川区内の従業員10人以上の工場（約230社）を常時ウォッチし、何が起きているのかを把握するくらいの姿勢が必要

#### ○商業

- 大型店と地元商店街とが共存共栄するための方策を検討していく必要がある。

#### 【各委員の意見】

- ・大型店が出店する中、地元商店街をどう振興していくのか
- ・大型店と地元商店との共存共栄
- ・環境及び観光振興と結び付けた都電沿線地域の商業振興

#### ○観光振興

- 区内の観光資源を発掘し、有機的なネットワークとして結び付け、区内外に情報発信していくことが重要である。

#### 【各委員の意見】

- ・他に真似のできない観光資源である都電荒川線の有効活用
- ・隅田川の水上市の観光資源としての利用可能性
- ・観光資源は時間をかけてつくっていくことが大切
- ・身近な住環境や地域の緑を観光に活かす
- ・お金を掛けて観光資源を作っていくことも必要である
- ・近隣区や区内の観光資源をリンクさせていくことが重要
- ・ミニバス等で区内の観光資源をつなぐ
- ・近隣区の観光協会との連携
- ・市民レベルのメディアによる情報発信

《総論》

○街づくり

- 荒川らしさを活かしつつ、区内に住む人が誇りを持てるような街づくりを推進することが重要である。
- マンション等の再開発が進み、新たに区内に転入してくる住民が増加する中、新住民の区内定着や新たなコミュニティの形成を図っていくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・荒川区を象徴するシンボルが必要、シンボルがなければつくり育てる
- ・地域に活力があるとは、「その地域に住み続けている人たちが、住み続けることに誇りを持っていること」
- ・住民の望む形の発展の仕方が、まちづくりにおいては重要
- ・まちづくりには、開発すべきものと残していくべきものとが必要
- ・地域のやすらぎを考えに入れたまちづくりが必要
  
- ・マンション開発により流入したファミリー世帯をいかに区内に定着させるか
- ・旧住民と新住民との協調性の確保が必要
- ・街づくりには地域コミュニティなどのソフトの部分が重要
- ・コミュニティなどソフト面で荒川らしさを残していく必要がある
- ・障害者・高齢者が自律移動できる街の実現

《各論》

○都市基盤整備

- 交通ネットワークの利便性を活用して、都市基盤の整備を進めることが重要である。

【各委員の意見】

- ・荒川区内にある鉄道駅に交通結節点としてどのような機能を持たせるのか
- ・つくばエクスプレスや日暮里・舎人線等の交通ネットワークの積極的活用
- ・地域の顔を規定しているのはその地域にある街路や道路
- ・災害に強いまちづくりを目指して、道路拡幅を進める

○住環境整備

- 災害に強いまちづくりに向けて、ハード面から木造密集地域の解消、ソフト面から地域コミュニティの支援に取り組むことが重要である。
- 下町の風情を残した街並みを活かして、開発と調和のとれた魅力ある街づくりを推進することが必要である。

【各委員の意見】

- ・震災対策としての木造密集地域の解消
- ・木造密集地域の解消に向けた各種補助金の活用
- ・災害時に対処できるコミュニティづくりの支援、誘導
- ・まちづくりのソフト面の取組を更に強化するなど整備をスピードアップさせることが必要
  
- ・美しい荒川区のまちづくりのための景観等への規制、誘導
- ・落ち着いたある景観、街並みの維持

《総論》

○教育

●学校だけではなく、地域社会全体で教育を支えることが重要である。

【各委員の意見】

- ・学校教育だけではなく地域全体で教育を支える
- ・学校間の学力格差の拡がり
- ・学校の特徴化・差別化、魅力ある学校づくりの推進
- ・子どもに対する地域の安全対策が必要
- ・ファミリー層の転入による局地的な学校・幼稚園不足への対応
- ・コミュニティの問題もすべては教育に帰結する
- ・家庭教育・社会教育の充実が重要

《各論》

○学校教育

- 子どもの生きる力を育み、個性や能力を十分に発揮して、厳しい社会をたくましく生きられる人材を育成することが大切である。
- 教師の教える力を高め、荒川区の良さや人間が大切にされる教育を進めることが重要である。
- 学校段階から、給食を通じた食育を推進することが必要である。

【各委員の意見】

- ・子どもの生きる力、教師の教える力を養う
- ・マニュアル人間から多様なフィールドワークの体験へ
- ・教員の質の向上
- ・人間が大事にされるような教育
- ・荒川区の良さを教える教育
- ・不登校児対策の推進
- ・少年期から職業意識を涵養する「職業教育」を推進する
- ・学校給食を活用した食育の推進
- ・「必ず朝食を摂る」活動、「早寝早起き朝ごはん」キャンペーンの推進

○生涯学習・スポーツ

●区民の生涯学習・スポーツに対する意欲の向上を支援するため、環境づくりや施設整備を進めることが必要である。

【各委員の意見】

- ・ボランティアによる生涯学習指導の支援
- ・駅周辺へのカルチャー施設の設置
- ・地域的な教育環境の充実のための中央図書館の建設
- ・若い子育て家庭が話し合える場、講座等の開設
- ・スポーツを楽しめる環境づくり、施設整備

《総論》

○文化

●時代にあった文化の継承・振興を進めていくことが重要である。

【各委員の意見】

- ・南千住の再開発に代表されるような新住民による新しい文化の創出
- ・従来からの文化と新しい文化との共存
- ・文化は時代に合わせて形を変え生き残っていく
- ・文化の継承の仕方、補助金ではなく側面からサポートする
- ・文化・芸術基本条例の策定を検討すべき

《各論》

○文化振興

- 地域の伝統工芸や芸術文化の保存・継承を通じて、地域の文化資源の積極的なPR活動を推進することが必要である。
- 国内外との交流を活発にするため、地域文化や自国文化に対する理解を深めることが重要である。

【各委員の意見】

- ・伝統工芸の区民開放
- ・千住大橋など近代遺産の保存
- ・地域の文化の積極的なPR
- ・地域の文化度は博物館に反映される
- ・荒川の文化資源を活かした観光
- ・神社のお祭りや盆踊り、縁日等が文化に慣れ親しむ入り口であり、そういったものを盛り上げていく姿勢が大切
- ・将来の日本を担う子どもたちには自国の文化に精通してほしい
- ・国際的に活躍するために伝統文化やふるさとの文化を教養として身に付けることが必要
- ・異文化交流や英語教育などの国際理解教育の推進
- ・文化に対する理解が国内都市や国際都市との交流をより内容の濃いものにする
- ・文化伝承を通じた世代間交流の推進

《総論》

- 生涯健康都市を実現するため、健康であることはすべての基礎となるという認識のもと、自らの健康づくりに対する意識向上を図っていくことが必要である。
- 少子高齢化が進行する中、地域全体で子育てしやすい環境づくりや高齢者が安心して暮らせるまちの実現を目指すことが重要である。

【各委員の意見】

- ・健康であることはすべての基礎となる
- ・「生涯健康都市宣言」のスローガンの明確化、他地域との違いを明確にすることが必要
- ・国の制度に左右されない福祉理念の確立
- ・地域社会全体で子どもを育てていくという視点が重要
- ・家庭から社会へと子育て・介護・福祉の比重を移してゆくことが必要
- ・保育園・幼稚園と高齢者施設との交流プログラムや世代間交流が必要
- ・ボランティアやヘルパーだけでなく一般区民にも福祉活動への参加を促す

《各論》

○健康づくり

- 健康づくりの重点を、事後対応から事前予防へとシフトさせるとともに、普段からの健康づくりに対する意識を高め、実際の行動に結び付ける取組を推進していくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・悪くなる前の予防、健康増進の意識をどう高めていくかという視点が重要
- ・健康に対する自己責任の意識を高めていくことが必要
- ・健康づくりへの意欲向上の支援
- ・区民の健康づくりの意識を高めていくことは医療費や介護費の減少につながる
- ・健康問題については、知識の付与だけでなく、行動変容を起こさせる取組が必要
- ・平均寿命が短い原因の究明・対策
- ・健康対策の民間へのアウトソーシング

○子育て支援

- 中心市街地に保育施設を設置するなど、区の子育て環境をより充実させ、子育て世代にとって住みよいまちにしていくことが重要である。

【各委員の意見】

- ・区の施設の空き部屋を利用し、民間に委託して一時保育を行う
- ・遊び場の危険度をチェックする必要がある
- ・保育施設を中心市街地に置くことが必要
- ・子どもを育てる親たちの不安解消のため、夜間・緊急相談体制の充実が必要
- ・子どもを持つことに対する、若い女性への啓発講座の開設
- ・子どもから大人まで、誰もが参加できる催しを行うことにより、子どもたちが高齢者や障害者と触れ合い、思いやりの心を身に付けることができる

○高齢者福祉

- 介護の先進区を目指して、高齢者が暮らしやすいまちの実現を図るとともに、退職後も地域で活躍できる場を提供していくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・単身高齢者のみの世帯の基本的な人権・生存権の尊重
- ・介護の先進区を目指すべき
- ・特別養護老人ホーム待機者問題、家族介護のあり方について十分議論していくことが必要である
- ・介護予防施策の成果検証が必要
- ・専門家としての介護コーディネーターの設置、育成
- ・退職後も社会参加できる仕組みづくり
- ・団塊世代のエネルギーを世代間交流の中で活用していくことが必要

○障害者福祉

- 障害者が自立した生活を送ることができるよう、就労の機会の確保を図っていくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・仕事を充実させて、障害者の方でも一定の収入が得られるようになったら一定の負担をしていただくというのが本来の制度のあり方
- ・親亡き後のフォローをどうしていくのかが将来的に大きな問題

《総論》

○環境

●環境先進都市の実現に向けて、区民や事業者等との協働により、地球温暖化・ヒートアイランド対策や地域における生活環境の保全、環境美化の推進等を実行に移していくことが重要である。

【各委員の意見】

- ・環境対策は豊かで便利に暮らしている区民に不自由を強いることにもなる
- ・NPO等のボランティア組織の環境問題に対する役割
- ・環境に配慮した路面電車等の活用
- ・行政だけでなく区民との協働が必要
- ・下町のコミュニティを活かした環境問題に対する取組
- ・地球環境を考えるには、まず身近な環境問題に取り組むことが大切
- ・環境教育の必要性と実践行動
- ・蝶々など身近な自然と触れ合う機会から、命の大切さを学ぶことができる
- ・環境問題は健康問題とつながっている

《各論》

○地球温暖化・ヒートアイランド対策

●地域のコミュニティを活かし、様々な角度から地球温暖化・ヒートアイランド対策を進めていくことが必要である。

【各委員の意見】

- ・地球温暖化・ヒートアイランド対策は、防災・コミュニティ対策でもある
- ・平面図で捉えた屋上緑化に加え、立面図で壁面緑化可能面積をカウントすることで、蒸散効果の高い街づくりを進める
- ・区のコミュニティを活かした街並み緑化や「打ち水作戦」などの「区民力によるクールアイランド作戦」
- ・木遣い文化運動によるCO2の都市域での固定による地球温暖化防止
- ・ヒートアイランド対策に有効とされる遮熱性舗装は、通常の道路舗装よりもコスト高であり、環境に対する区の姿勢が問われる
- ・緑を増やす環境基金の設置

○資源循環型社会

●太陽電池などの新たな環境保全の取組を進めるとともに、環境ビジネスの視点から、区内に集積する再生資源業界の振興を図ることが必要である。

【各委員の意見】

- ・ごみを再生可能資源として捉える
- ・ごみゼロ社会、循環型社会の具体化
- ・太陽電池の実用実験
- ・風力発電の検討
- ・環境ビジネスの視点
- ・地場産業としての再生資源業界の集積

○環境美化

●緑化の推進や電柱の地中化など、環境に配慮した美しいまちづくりを進めることが必要である。

【各委員の意見】

- ・植木鉢を家や路地に置くなど、下町らしい緑化の推進
- ・電信柱の地中化による美観の形成
- ・景観の向上を観光につなげる
- ・美しい路地は観光名所にもなる
- ・「都電とバラ」につながるものをつくる
- ・歩行喫煙禁止等の規制手法の検討

《総論》

○防災・防犯・コミュニティ

●地域コミュニティが機能しているという荒川区の強みを最大限活かして、防災・防犯対策に取り組んでいくことが重要である。

【各委員の意見】

- ・防災・防犯にはコミュニティづくりが大切
- ・コミュニティが機能することが荒川区の強み
- ・災害時要援護者への対応

《各論》

○防災

●減災を視野に入れたまちづくりを進めるとともに、関係機関との連携強化を図ることが重要である。

【各委員の意見】

- ・荒川区に存在する建築物が現在の耐震基準をどの程度クリアできているのか調査する必要がある
- ・耐震基準をクリアできていない建築物に対してどのような手を打つか検討する必要がある
- ・木造密集地域での延焼を止めるためには、幅員の広い道路の整備が必要
- ・不接道宅地対策の推進
- ・警察・消防・自衛隊との連携強化が必要
- ・震災が起きたときの人口密集地域の道路規制、避難場所の問題
- ・震災時の食料・水など栄養上の問題も重要

○防犯

●地域の安全性を高めるため、子どもや高齢者等を地域で守る体制づくりを進めることが重要である。

【各委員の意見】

- ・地域の安全のシンボルとして、交番をできる限り残すよう要請する
- ・振込め詐欺等に対する高齢者の防犯対策
- ・子どもと一人暮らし高齢者の防犯対策

○コミュニティ

●町会や自治会の自主的な活動を支援し、地域コミュニティの機能をさらに高める取組を推進することが必要である。

【各委員の意見】

- ・下町のコミュニティを活かした取組
- ・区のコミュニティ施設においては、縦割り行政で運営されているような雰囲気を一掃し、人間性豊かな職員を配置する
- ・行政に過度に依存しないコミュニティづくり